

姉妹都市派遣事業を終えて

吉田中学校 天野 一紀

ぼくはこの姉妹都市派遣事業を通して、いくつか自分を成長させたと思います。その成長とは、まず、ぼくは英語を話せるか心配でした。相手の人が何を言っているのか、理解できるかなどのが心配でした。ですが、ホームステイ先の方は、わからなくてもぼくたちにわかるまで必死に教えてくれました。そしてぼくもわかるまで必死に耳を傾けました。その力です。ぼくは、人の話を真面目に聞くときもあれば、あまり聞いていないときもあります。ですが、この姉妹都市派遣事業を通し、日本に帰ってきてから自然と人の話をしっかり聞いているのに気づきました。言語が同じだからと言って、人の話を聞かないというのは前までの自分。今の自分は正確に物事を理解できるように、人の話をよく聞くことができる。すごい第一歩だと思います。

そして次に、相手のコミュニケーションの大切さです。日本ではあまり知らない人に話しかけるのは難しいと思います。ですが、アメリカの人たちは、みんなもう知っている人かのように話しかけてくれました。ぼくはそれに助けてもらいもしました。不安もあったけれど、会話をしていくうちに段々と不安もなくなっていきました。人と人とはそうやってわかりあっていくものなのだなと思いました。それからぼくは聞きたいことがあったら自分から進んでいけるようになったり、フレンドリーな心をもってコロラドのメンバーとも話をしたりしました。これも一歩を踏み出せたと思います。

そして最後に、おもてなしの心です。ホームステイ先の人、ホテルの人、店の人、みんなにお世話になってよくしてくれました。アメリカの文化を伝えるために、ぼくたちに教えてくれたり、おいしい料理を食べさせてくれました。これは心が優しくておもてなしの心がなければ無理なことです。日本にもおもてなしの心があります。ですが、ぼくはそれを当たり前のように思っていました。だからこそ外国に行っておもてなしの心を味わうことができるとすごいなあと思いました。だから僕は、積極的に物事を進んでやったりそういうことが大切なのだと気づいたのです。これが最後の一歩です。

このように自分を成長させてくれました。ぼくはまたコロラドに行きたいし、それに限らずに、アメリカのどこかの州にも行ってみたいなあと思いました。このような貴重な経験をできたことが、ぼくにとってよかったことだと思います。